

2020年10月17日

ファスニングジャーナル(5面)に掲載されました

地域・社会 日東精工 貢献企業

ワクチン寄付活動

ペットボトルキャップ収集

同社では、数年前よりペットボトルのキャップ収集を行っており、この度約一〇〇名分相当のポリオワクチンにあたる量を収集した。キャップは、認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付し、ユニセフとの連携の下にポリオワクチンとして支援国へ届けられ、必要とする世界中の子どもたちを救う活動となる。

この背景には、同社はSDGs（持続可能な開発目標）の活動を積極的に推進し、よりよい社会を目指して価値創造モデルを公開。その中には地方創生や環境共生というマテリアリティ（自社に関わる重要課題）を掲げ、一環としてCSR（社会貢献）活動は特に積極的に行っている。取り組みの一つに「次の世代につなげる大切な」や「絆」といった「繋がり」をキーワードに位置付け、一人ひとりが連帯の心を育み、共に

社会をより良いものにすることを目的に、数年前よりペットボトルキャップの収集寄付で、ポリオワクチンを世界中の子どもたちに届ける活動がある。本年は、コロナ禍によりモデルフォレストや清掃活動などの社会貢献活動の実施が難しい中で、今出来ることを精一杯におこなうことを念頭に、ペットボトルのキャップ収集を積極的に実施。同社のマテリアリティ（自社に関わる重要課題）は、持続可能な社会の実現のために日東精工が果たすべきマテリアリティを四つに設定。これらは「我らの信条」に基づき顧客、地域、環境、従業員との「絆」を大切にす

ることを目的に、数年前よりペットボトルキャップの収集寄付で、ポリオワクチンを世界中の子どもたちに届ける活動がある。本年は、コロナ禍によりモデルフォレストや清掃活動などの社会貢献活動の実施が難しい中で、今出来ることを精一杯におこなうことを念頭に、ペットボトルのキャップ収集を積極的に実施。同社のマテリアリティ（自社に関わる重要課題）は、持続可能な社会の実現のために日東精工が果たすべきマテリアリティを四つに設定。これらは「我らの信条」に基づき顧客、地域、環境、従業員との「絆」を大切にす

ることを目的に、数年前よりペットボトルキャップの収集寄付で、ポリオワクチンを世界中の子どもたちに届ける活動がある。本年は、コロナ禍によりモデルフォレストや清掃活動などの社会貢献活動の実施が難しい中で、今出来ることを精一杯におこなうことを念頭に、ペットボトルのキャップ収集を積極的に実施。同社のマテリアリティ（自社に関わる重要課題）は、持続可能な社会の実現のために日東精工が果たすべきマテリアリティを四つに設定。これらは「我らの信条」に基づき顧客、地域、環境、従業員との「絆」を大切にす

ることを目的に、数年前よりペットボトルキャップの収集寄付で、ポリオワクチンを世界中の子どもたちに届ける活動がある。本年は、コロナ禍によりモデルフォレストや清掃活動などの社会貢献活動の実施が難しい中で、今出来ることを精一杯におこなうことを念頭に、ペットボトルのキャップ収集を積極的に実施。同社のマテリアリティ（自社に関わる重要課題）は、持続可能な社会の実現のために日東精工が果たすべきマテリアリティを四つに設定。これらは「我らの信条」に基づき顧客、地域、環境、従業員との「絆」を大切にす

ることを目的に、数年前よりペットボトルキャップの収集寄付で、ポリオワクチンを世界中の子どもたちに届ける活動がある。本年は、コロナ禍によりモデルフォレストや清掃活動などの社会貢献活動の実施が難しい中で、今出来ることを精一杯におこなうことを念頭に、ペットボトルのキャップ収集を積極的に実施。同社のマテリアリティ（自社に関わる重要課題）は、持続可能な社会の実現のために日東精工が果たすべきマテリアリティを四つに設定。これらは「我らの信条」に基づき顧客、地域、環境、従業員との「絆」を大切にす